



特定非営利活動法人

# 千葉県防災士会会報

第 1 号

平成26年1月5日  
発行 千葉県防災士会  
連絡先 0470-76-3429  
(事務局: 西川)



## ご挨拶

新年を迎え会員皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私たち千葉県防災士会は、平成18年8月発足以来、県内各地でさまざまな防災活動を展開しております。具体的には、各地の自治会をはじめ、区市町村からの依頼を受け講演活動また、応急手当、搬送法、ロープワーク等を県民の皆様にご指導してまいりました。

また、平成23年10月には特定非営利活動法人の認証を頂き組織強化を図ってまいりました。しかし、これまでの運営で問題視された懸案は、対外対応に対して内部対応が不十分であったこととあります。このことを、重要案件としまして、本年の最優先課題と致しました。

今回発刊します会報は、その第一歩であり会員皆様に情報周知をいたします。また、応急手当、搬送法、ロープワーク等の研修会を年間数回行い、会員の技術向上に努めてまいります。このような内部活動を展開することで、会員相互のコミュニケーションを図り組織強化を目指して参ります。そして、防災士の基本理念であります、自助、互助、協働を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動をしてまいりますので、会員皆様にはご理解、ご協力を頂きますようお願いいたします。

結びに、会員皆様のご健勝をご祈念いたしまして挨拶といたします。(理事長 黒川民雄)



私たち千葉県防災士会は、自らが地域防災の担い手となるべく活動を進めてまいります。

## 主たる活動記録

日本防災士会HPIにて活動の詳細が見ることが出来ます。  
インターネットから「日本防災士会」を開いて、「支部活動」を開くと見えます。

25年11月16日(土)  
成田市総合防災訓練



この訓練の特色は、開会式において黒川理事長が地域の長(成田警察署長)より上席にて紹介されました。防災士会に対する期待の大きさが分かります。訓練模様は、成田ケーブルテレビにて紹介されています。

25年11月16日(日)  
成田市宗吾台防災訓練



今年の訓練は、先月10月16日の台風26号の被害による教訓を踏まえ、「いざその時のためにどう避難すべきか」を演題とし、災害事例(土砂災害危険)や気象警報の特別警報発令を取り入れ「風水害の危険が迫ってきたら」をサブタイトルにした講演と簡単にできるワンポイント訓練は緊急地震速報着信時の対応要領、実技訓練は、救助救出、応急担架の作成訓練を展開しました。

25年12月1日(日)  
成田市ボランティア養成口座



第1部 講演「東日本大震災の学ぶ」  
～私たちは決してわすれない～

第2部 実技指導

- ① 簡易ランタン作成  
アルミホイルとティッシュで簡単ランタンを作る指導を行い参加者全員が体験をした。
- ② ストッキング及びスーパーのレジ袋での応急措置  
傘とネクタイでの応急措置 一人搬送

25年12月8日(日)  
千葉市高洲三丁目住宅管理組合



第1部 防災講演「自助」「自助・共助」の意義

第2部 実技指導

毛布と竹竿での応急担架作成、椅子を使った応急担架の作成  
ロープやTシャツを竹竿に通して作る応急担架やリュックサックを使った搬送法。一人搬送・二人搬送等の徒手搬送法を指導した。  
参加者からは、スーパーのレジ袋がとっさの場合の応急措置に使えるなんて、不要だから“ばい”なんていけないんですね。と感心していた。

## 理事会報告

会員の減少歯止め対策

- ① 会報誌を3ヶ月に1度発行し、広く情報を周知する。
- ② 各会員への研修を行いスキルUPを行う。
- ③ 名簿の精査を行う

25年11月9日(土)定例会  
理事会で決まったこと。

1. 事務引継ぎスケジュールについて、早急に行う。
2. 会員の減少に対する歯止め。
3. 情報の共有化について、フリーメールを使い、各種訓練等の出欠確認をするのがベターではないか？検討する。
4. 訓練企画については、理事会の承認を必要とする。
5. 現在の理事の人事について、26年3月で任期が切れるが、再任の意向確認を行う。



25年12月14日(土)定例会

理事会で決まったこと。

1. 事務局体制の再編により事務引継ぎの未完了部分を早急に完了すること。
2. 日本防災士会への支部補助金申請を完了すること。
3. 情報の共有化について、フリーメールを使用し各種訓練等情報及び出欠確認をする。
4. 訓練企画については、理事会の承認を必要とする。
5. 現在の理事の人事について任期が切れた後の再任意向の確認を今後行っていく。
6. 会報誌の定期的な発行について、3カ月ごとに会員向けに発行していく。

## 今後の理事会・訓練予定

26年1月21日(火) 平成25年度婦人防火研修会

26年1月25日(土) 八街市防災訓練

26年1月20(月)～2月7日(金)の平日

銚子市・旭市・匝瑳市防災職員、消防職員研修

26年2月15日(土) 成田市ボランティア講演会

場所:成田市役所6階会議室 13:30～15:30受付13:00

26年2月23日(日) 山武地区防災啓発

場所:さんぶの森文化ホール 14:00～15:00受付13:30

26年1月18日(土) 定例理事会

26年2月8日(土) 定例理事会

26年3月8日(土) 定例理事会

## お知らせコーナー

千葉県防災士会では、一般の会員の理事会の見学や各種訓練の見学・支援等幅広く求めています。また、ロープワーク・応急処置法などのスキルアップをめざし、会員向けに研修会の実施を予定しています。今回は津波記念碑について紹介します。(次回は鴨川市の河岸段丘を紹介したいと思います。)



延宝の津波供養塔  
(長生郡一の宮町権現前地先)

延宝5年(1677年)9月九十九里浜一帯に津波被害がありました。その時の津波供養塔です。

これは、8月実施した東金市役所での防災講演資料を引用しました。



チリ津波碑(長生郡白子町白子海岸)

昭和35年5月南米チリで発生した津波が津波が太平洋を横断し千葉県九十九里浜の白子海岸へ打ち寄せた津波碑です。

防災啓発活動を展開するにあたり、知っておくと便利な教材です。(理事 渡邊一弘)

## 防災トピックス

### ◎「特別警報」について

気象庁は、平成25年8月30日(金)に「特別警報」の運用を開始しました。

**「特別警報」が発表されたら、ただちに命を守る行動をとってください。**

気象庁はこれまで、大雨、地震、津波、高潮などにより重大な災害の起こるおそれがある時に、警報を発表して警戒を呼びかけていました。これに加え、今後は、この警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。

特別警報が出た場合、当該地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。

周囲の状況や市町村から発表される避難指示・避難勧告などの情報に留意し、ただちに命を守るための行動をとってください。

**特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。**特別警報の運用開始以降も、警報や注意報は、これまでどおり発表されます。大雨等においては、時間を追って段階的に発表される気象情報、注意報、警報を活用して、早め早めの行動をとることが大切です。(出展：気象庁HP)

なお、以下の点にご留意ください。

- ・ 3mを超える大津波警報を特別警報と位置づけています。
- ・ 緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報と位置づけています。

### ◎「津波警報」について

平成25年3月7日から津波警報が変わっています。

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後、約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報が発表されます。その後、「予想される津波の高さ」「津波の到達予想時刻」等の情報が発表されます。

**マグニチュード8を超える巨大地震**の場合は正しい地震の規模をすぐには把握できない為、**最大級の津波を想定**して大津波警報や津波警報を発表します。

正確な地震の規模が分かった場合は、予想される津波の高さを下図の様に5段階で発表されます。

	予想される津波の高さ	
	高さの区分	発表する値
大津波警報	10 m ~	10 m 超
	5 m ~ 10 m	10 m
	3 m ~ 5 m	5 m
津波警報	1 m ~ 3 m	3 m
津波注意報	20 cm ~ 1 m	1 m

↑「特別警報」

津波の高さが30cmになると徒歩による避難が困難になります。津波から命を守るためには

- ・ 強い揺れ、よわくてもゆっくりとした長い揺れを感じたら
  - ・ 強い揺れ、よわくてもゆっくりとした長い揺れがなくても、津波警報を見聞きしたら
- すぐに避難**するようにしましょう。

また、警報が出たら避難訓練と思い、すぐ行動する習慣を身につけましょう。(理事 藤橋政範)

## 自由テーマ

ある日の夕方、ふとテレビから懐かしい歌が流れて来ました。南こうせつの歌う「神田川」。1973年昭和48年の歌であると言う。まだ幼い頃、この歌を聴いて「神田川って東京の中心を流れているんだよね、水源ってどこだろう？行ってみたいね。」って心を馳せてから40年。時の過ぎるのは早いもんです。

「僕、大きくなったらプロ野球選手になるんだ」、「僕はサッカー選手」、「私は看護婦」、将来の夢を語りながら飲み込まれていった未曾有の大震災からまもなく3年がたちます。記憶は時と共にだんだん私たちの中からうすれていきます。人は「天災だから！」と言います。私たちはいつ起こるか分からない「天災」に立ち向かうべき、日頃の準備や鍛錬を惜しまず常に心しておかなければとつくづく思います。(理事 浅野幸輝)

## 会員の声

